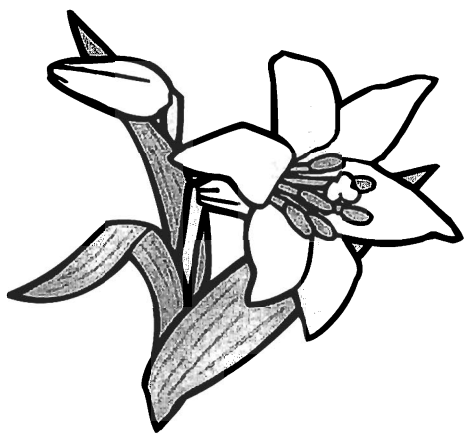


目次

「自己評価21」に向けて	学長 千熊正彦	1
OSCEの実施に向けて	OSCE担当責任者 荒川行生	2
薬学共用試験CBTについて	CBT担当責任者 土井光暢	3
ハイテク・リサーチ・センター整備事業		
.....ハイテク・リサーチ・センター長	松村靖夫	4
.....創薬基盤科学技術研究センター長	小林祐次	4
大学FD委員会の基本方針	FD委員会委員長 松島哲久	5
平成20年度前期授業・実習評価アンケート	教務部長 辻坊裕	6
平成20年度公開教育講座を終えて	公開教育講座委員長 掛貝正郎	8
平成20年度市民講座を終えて	市民講座委員長 天野富美夫	9
平成20年度進路・就職状況（中間報告）	キャリアサポート部委員会	10
第4回 特待奨学生表彰（学部・大学院）	学生部長 藤田芳一	11
学生相談室だより	学生相談室相談員 岡鈴佳	11
第43回大薬祭を終えて	学生部長 藤田芳一	12
各課だより		14
薬用植物の紹介（ゴシュユ）	薬用植物園長 馬場きみ江	



「自己評価21」に向けて

学長 千熊 正彦



大学設置基準（平成3年）では努力規定であった大学の自己点検・評価は第三者評価制度の導入（平成16年4月）により、大学に義務づけられました。それを受けて、大阪薬科大学は直ちに財団法人大学基準協会による第三者評価を受け、平成17年3月には同協会の定める大学基準に適合しているとして認証（認定期間：平成17年4月～平成22年3月）を得ました。

その後、平成18年度に薬学の修業年限の延長による薬学の新しい教育課程が始まるとともに新しい薬学教育に対する第三者評価の必要性が生まれました。本学においても薬剤師養成教育を検証し保証する目的で、「薬学教育（6年制）第三者評価 評価基準—平成19年度版」に基づいた自己評価（「自己評価21」）を実施することになります。「自己評価21」実施の根拠は平成16年2月にまとめられた中央教育審議会の答申「薬学教育の改善・充実について」において専門分野の第三者評価の必要性が述べられたことにさかのぼります。その趣旨は「医療人の養成を目的とする分野は、国民の命を預かり、健康を確保するという重大な任務を負う人材を養成することから、その教育研究の状況に関する社会の関心は高い。とくに薬学教育にあっては修業年限が延長されることに伴い、薬剤師養成のための質の高い教育が行なわれていることについての十分な検証と適正な評価を行なうことが求められる」というものであります。第三者評価の実施において「自己評価に基づく評価」は「評価基準に基づく評価」とともに基本方針になっています。

平成19年5月に厚生労働省によってまとめられた「薬剤師養成のための薬学教育実務実習の実施方法について」において、薬剤師資格をもたない薬学生が実務実習を行なう条件として「患者の同意」、「目的の正当性」および「行為の相当性」が要求されています。このうち薬学生の「行為の相当性」を担保する条件のひとつとして「実務実習を行なう薬学生の資質の確認」が挙げられており、その確認を行なうためには「各大学の6年制教育に対する第三者評価」が必要とされています。大阪薬科大学においても、新教育課程の一期生が平成21年度前期に実務実習事前学習における臨床導入実習等を行い、平成22年度には病院および薬局において実務実習を受

けます。医療の担い手にふさわしい薬剤師を養成するための質の高い6年制薬学教育が本学において行なわれていることを検証し、社会に対する説明責任を果たすことを目的として平成21年度内に「自己評価21」を実施しなければならないのであります。

平成19年度文部科学省委託事業としての「薬学教育（6年制）第三者評価実施システムの構築に関する研究」（平成20年3月）によれば、「自己評価実施要領」は平成20年12月までに、また実施要領に関する説明会は平成21年1月に開催される予定であります。「自己評価21」の準備は平成20年度から始める必要があります。本学では例年、シラバスは前年度末に作成されますが、この記載内容が評価のための重要なエビデンスと位置づけられています。最近の「第二回薬学教育第三者評価に関するワークショップ報告書」によれば従来のシラバスの内容に加えて、新たにシラバスに掲載することが望ましい内容が例示され、そのひとつとして、「医療人教育の基本的内容」が挙げられて、基本的な医療人教育が全学年を通して実施されていることを示す関連図などを作成して、関連科目がどのような順序および方法（SGD、PBLなど）で教育が行なわれているかを示す、というように具体的な提案がなされています。その他、「実務実習」ではその実施、評価における連携体制の明示、「問題解決能力の醸成のための教育」では、自己研鑽・参加型学習の全学年における配置一覧の作成などが提案されています。

21世紀は「知識基盤社会」の時代であるといわれています（「我が国の高等教育の将来像」2005年1月）。最近、学士課程教育の充実が求められていますが、薬学においては新教育課程が進行中であり、薬学教育を検証するうえでよい機会と考えることができます。本学としては「自己評価21」の準備や実施を通じて、本学の教育内容や方法の改善を図り、薬剤師としての意欲、能力、倫理感を育むために教育の質の向上・保証をより一層推進しなければなりません。そしてその内容を本学学生や社会に紹介することに努めたいと考えます。

教職員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

2006年4月に入学いたしました6年制学生の第1期生も本年度は3年次に進級し、現在、病院・薬局における実務実習（5年次に実施）のための事前学習も講義を中心として既に開始されております。来年度には事前学習も本格化し、さらにその仕上げとしての共用試験（OSCEおよびCBT）も行われます。OSCEにつきましては、本学報第53号（2006年6月発行）において既にその概要をお知らせしておりますが、本実施まであと1年となりましたので、その内容や本学における準備につき、あらためまして解説申し上げます。

OSCEとは

OSCEは、6年制薬学教育において、薬学生が病院・薬局において参加型の実務実習を行うに相応しい技能・態度を習得しているかを評価するための試験と位置づけられています。また、OSCEに合格することは、薬剤師免許を持たない薬学生にとって、実務実習を行うにあたり前もって担保しておかなければならない条件の一つとなっています。すなわち、通常、OSCEは共用試験として実務実習事前学習の終了後に行われ、本試験に合格した学生のみが病院・薬局での実務実習を行うことができます。なお、試験は大学内の施設を使って行われ、各学生の試験結果の評価（合格判定）は大学が行わなければなりません。

実施の概要

OSCEの具体的な実施方法および内容については、薬学共用試験センターより実施要綱（適宜改訂）が示されており、各大学ともにこれに従ってOSCEを行うこととなります。実施時期についても追・再試験（1回のみ実施）を含めて大よその範囲が指定されており、本学の場合、2010年1月（追・再試験は2月）を予定しています。試験問題に関しては、表に示す5領域からの6課題が試験課題となります（今後、新課題も順次加えられる予定）。

課題の具体的内容については実施前に薬学共用試験センターから大学ごとに通知されることになっており、通常は各大学に割り当てられる課題は全くの同一ではありません。評価は、課題を実施する一つのレーンにつき、2人の評価者が各々、評価表の項目にもとづいて行います。その際、2人の評価者の合計点が、細目評価については総点の80%以上、概略評価については5点以上となることが合格の一応の基準として提示されていますが、最終的な合格判定は大学が行うことになっています。

実施のための準備

OSCEの実施にあたっては、ハード面では専用施設が、ソフト面では評価者や標準模擬患者（SP）が必要となります。前者については現在建設中の新学舎の2階部分に設けられます実習専用施設を利用しますが、本施設は2階部分のみで全課題が行えるように設計されています（事前学習の実習・演習部分も本施設で行います）。また、OSCEに必要な評価者は多数となりますので、大学間で教員を相互派遣する体制を整えつつあります。SPにつきましては、ボランティアを広く一般に募り講習会を行うなどその養成が急務であります。これらソフト面については、今後とも教職員の方々の協力が必須となりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。なお、本学におけるOSCEの実施に向けては、学内の共用試験委員会が中心となってその環境整備と準備を進めております。また、教員の方々には、OSCEトライアル（他大学でのものを含む）、評価者養成伝達講習会、SP養成講習会などに適宜参加していただいてOSCEの実際を経験していただいております。今後は、評価方法の検討や評価技術の練磨の場として学内においても評価者講習会を開催して参りますので、皆様方には積極的にご参加いただき、OSCE本実施に向けて引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

表 OSCEで実施される課題（5領域8課題）*

	領域（名）	課題（名）	実施内容
コミュニケーション系	1.患者・来局者対応	①患者対応	受付カウンターでの挨拶、初回インタビュー、受付終了
	2.情報の提供	②薬剤交付	調剤終了後の患者呼び出し、服薬指導、終了挨拶
調剤系	3.薬剤の調整	③計量調剤（散剤）	処方せん（複数散剤処方）に基づく、秤取量計算、秤量、混合
		④計量調剤（水剤）	処方せん（複数散剤処方）に基づく、薬札（ラベル）作成
		⑤計量調剤（軟膏剤）	処方せん（複数軟膏剤処方）に基づく、薬袋作成、混合、充填
	4.調剤鑑（監）査	⑥調剤鑑査	処方せん（複数計数剤処方）に基づく、薬袋鑑査、調剤鑑査
		⑦手洗いと手袋の脱着	マスク装着、衛生的手洗い、手袋の装着・取り外し
5.無菌操作の実践	⑧注射剤混合	処方せん（複数注射剤処方）に基づく、アンプル・バイアルからの薬液採取、バッグへの薬液注入、終了後のシリンジ処理	

*うち、6課題（5領域を必ず含む「薬剤の調製」については2課題）を実施（2008年3月現在）

【準備状況】薬学共用試験の実施は次年度に迫ってきました。学報第53号(2006年6月発行)にCBT(Computer-Based Test)の概要をご紹介して以降、CBT実施準備が整いつつあります。なかでも最も重要なCBT問題に関しては、全国から延べ25,000題の候補問題が薬学共用試験センターに集められ、選定が進められています。各分野の専門チームがこれらの問題を精選し(図1)、さらに、薬学4年制の学生が実際に受験するというCBTトライアルも全国規模で2回実施されました(図2)。これで本番に使用しても適切であると判定された問題数は約7,300題に達しており、すでにCBTを実施できる状況にあります。

また、CBTで用いられる試験ソフト類も改訂が繰り返され、細かな仕様には不満が残るものの、安定したシステムが構築されています。11月~12月には、薬学4年制の制度上最終学年の学生による第3回CBTトライアルが全国で予定されており、パニックテスト(試験中に故意に障害を発生させること;いつ、どこで、何が発生するかは事前に知らされない)が実施されます。各大学のCBT担当者にとっては迷惑なテストですが、これによって緊急時における監督や管理者の対応に関しても最終リハーサルが完了します。

【これからの予定】薬学共用試験センターのアナウンスでは、平成21年8月に「CBT体験テスト」が実施されることとなります(図3)。体験テストは、希望者がパソコンを使った受験練習や、自分の学力確認を行うことを目的としています。危険される側面を持ちます。本来、CBTは「一か月以上の特別な準備学習をしなくても正答率70~80%となるような問題を出題する」平易な試験です。しかし、CBT合格者を強く意識している大学では、本番の最大で6か月も前に出てくる体験テストの結果は、国試対策のように過度なCBT対策の引き金になる可能性があります。全国でこのような過剰反応さえ起こらなければ、本試験までの間に各受験生の苦手分野の復習を指導するなど、本来の教育と反しない対策が可能です。また、この学報が発行される頃には全国薬科大学長・薬学部長会議でCBT合格基準点が決定されています。「正答率70~80%」の問題で構成されるCBTですが、薬学教育をゆがめかねない高い基準点が憂慮されます。

本学ではCBTの日程として、本試験を12月末、再試験を2月末に希望しています。これはCBTが後期・定期試験にできるだけ干渉しないよう配慮した日程です。し

かし、CBT本試験が不合格になると、CBT再試験まで2か月あるとはいえ、学科目の追再試験や特別再試験と接近した厳しい日程になってしまうかもしれません。6年制の現3年次生には、進級が決まれば、できるだけ早く下位年次科目の復習を始めてほしいと切に願います。

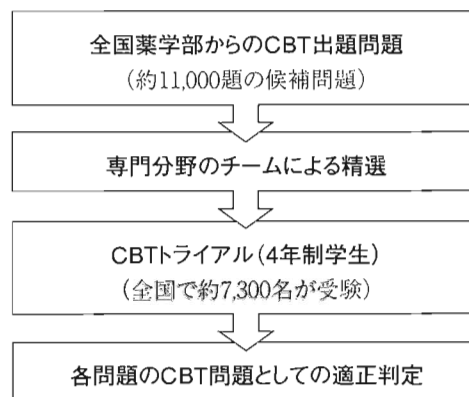


図1 過去2回行われた問題の作成・選択の過程



図2 第2回CBTトライアル受験風景

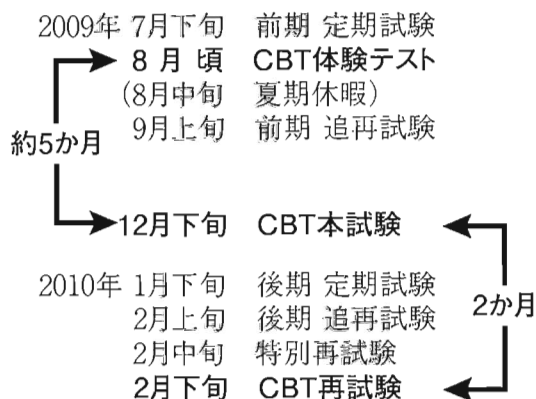


図3 平成21年度CBT関連の予定

ハイテク・リサーチ・センター整備事業

ハイテク・リサーチ・センター整備事業について

ハイテク・リサーチ・センター長 松村 靖夫

本学では、平成19年度から3年間、文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業であるハイテクリサーチセンター整備事業に採択され、「DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機構の解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用」と題したプロジェクト研究を遂行しています。本事業は、平成14年度から5年間、大学一丸となって行われたプロジェクト研究の継続事業ではありますが、新たに組織を再構築し、以下の7研究項目から成り立っています。

- 項目Ⅰ 単離したDNA・RNA結合タンパク質のX線構造解析と疾病に関連する機能の研究
- 項目Ⅱ DNA結合複合体の酵素活性調節や免疫賦活作用の研究
- 項目Ⅲ DNA・RNA結合分子の疾病における変化のプロテオーム解析
- 項目Ⅳ DNA・RNAに結合する金属錯体や天然物の抗がん活性または抗微生物活性の研究
- 項目Ⅴ 疾病の発症機構の解明ならびに診断・予防および治療薬の開発への応用
- 項目Ⅵ DNA・RNA結合活性を有する薬物の体内動態の研究
- 項目Ⅶ 生体微量成分の分析法の開発

本継続事業においても、これまでと同様に、各年度末に公開シンポジウムを開催し、学内外のシンポジストによる公開シンポジウムを開催するとともに、各研究プロジェクト項目担当者によるポスター発表会を行い、研究成果報告書を作成しています。本年度は事業2年目の節目にあたり、最終年度に向けた仕上げに取りかかる必要もあります。今後は上記7項目の体制を原則的に踏襲するものの、各項目での研究成果の内、本事業の目的達成が最も期待できる具体的な研究項目に的を絞り、研究人員の再配置や研究費の重点的な配分を含めて、集中的に取り組む必要があると思われる。また必要に応じてポスト・ドクター制度を積極的に活用することも計画しています。

本研究事業を通じて、本学の学術研究活動にさらなる発展につながることを願っています。

なお本年度におきましても、本学創薬基盤科学技術研究センターにおいて遂行中のハイテクリサーチセンター整備事業「生活習慣病を標的とする分子構造と分子間相互作用の情報に基づく合理的創薬システムの開発」との合同シンポジウムを開催いたします。関係各位の参加をお願いする次第です。

生活習慣病を標的とする分子構造と分子間相互作用の情報に基づく合理的創薬システムの開発

創薬基盤科学技術研究センター長 小林 祐次

昨年(平成19年)、本学に標記のセンターが5年間の予定で採択されました。このセンターは生体高分子の構造情報に基づく合理的創薬(Structure Based Drug Design, SBDD)の概念を一層発展させ、定量的な熱力学解析に基づいた分子間相互作用に関する情報と、水和水の情報も含む飛躍的に精度の高い構造情報とを融合することによる新しい合理的創薬の手法の開発と応用を目指しています。

そのため、本学で現在、生理学、薬理学、生薬学などの分野で行われている研究のうち生活習慣病対策として新規薬物の開発を志向しているテーマを採り上げ、上記手法の応用を試みることで新規薬物を現実的に得ることを目指した研究を実施しています。それには参画する各人の業績を最大限に利用しつつ、互いの成果に関して有機的な密度の高い交流が図られることが期待されます。プロジェクトが始まって1年半ほど経過した現段階では、共通の目標に向う具体的なテーマの設定を模索して、毎月第一土曜日を勉強会の日と決め、構成メンバーが順に自分の研究を紹介し、詳細な内容にまで立ち入った討論を行っています。

研究対象の一例を挙げますと、近年患者数が増大の一途をたどり網膜症、腎炎、神経症といった深刻な血管障害による合併症を起こす糖尿病について、その予防・治療に有効な薬剤候補化合物の創製があります。これら血管障害は血液中に生じる終末糖化産物(Advanced Glycation Endproducts, AGE)と総称される一群の化合物とその受容体(Receptor for AGE, RAGE)の相互作用に起因することが分かっていますが、その受容体の立体構造とAGE-RAGE間の相互作用を詳細に解析することによって、この相互作用を阻害する物質を見出し、それをリードとしてさらに薬剤としての最適化を図る研究を遂行しています。

本センターの目標達成に向けた研究努力が、本学の学術研究活動の発展に寄与できることを期待しています。

大阪薬科大学ハイテク・リサーチ・センター平成20年度公開シンポジウム

日時：平成20年12月6日(土) 9:50～ 場所：大阪薬科大学・講義室2A

《プログラム》

第一部：「DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機構の解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用」

9:50 ご挨拶 松村 靖夫 (ハイテク・リサーチ・センター長)

10:00～10:45 田中 麗子 教授 (大阪薬科大学)

「天然物由来のトリテルペノイドの医薬への応用」

座長：浦田 秀仁

10:45～11:30 舘淵 英機 教授 (大阪市立大学大学院医学研究科)

「動物モデルを用いたがん予防剤開発の試み—有効性と安全性の確認—」

座長：田中 麗子

11:30～13:00 —ポスターセッション—

13:00～13:45 大桃 善朗 准教授 (大阪薬科大学)

「腫瘍発現分子を標的とする分子イメージング薬剤の開発」

座長：石田 寿昌

13:45～14:30 畑澤 順 教授 (大阪大学大学院医学系研究科)

「放射性薬剤が拓く生体イメージングの新展開」

座長：大桃 善朗

14:30～15:00 —ポスターセッション—

《プログラム》

第二部：創薬基盤科学技術研究センター「生活習慣病を標的とする分子構造と分子間相互作用の情報に基づく合理的創薬システムの開発」

15:00 ご挨拶 小林 祐次 (創薬基盤科学技術研究センター長)

15:10～16:10 友尾 幸司 准教授 (大阪薬科大学)

「認知症治療薬の開発を目指したタウタンパク質の自己重合阻害物質の探索」

座長：藤井 忍

16:10～17:10 村上 聡 教授 (東京工業大学大学院生命理工学研究科)

「多剤排出トランスポーターの結晶構造に基づく多剤認識と排出メカニズム—薬剤耐性化克服を目指して」

座長：友尾 幸司

17:20～ 懇親会

大学FD委員会の基本方針——大学教育の活性化に向けて教員と学生が一体となって取り組むべきことは何だろうか

FD委員会委員長 松島 哲久

平成19年10月1日から大阪薬科大学においても大学FD委員会が正式に立ち上がりました。FD (Faculty Development) とは、「教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組み」を意味します。このような大学を挙げての教育の改善への取り組みが、まず大学院教育で平成19年度から義務化されました。それを受けて学部教育での義務化が平成20年度から始まっています。

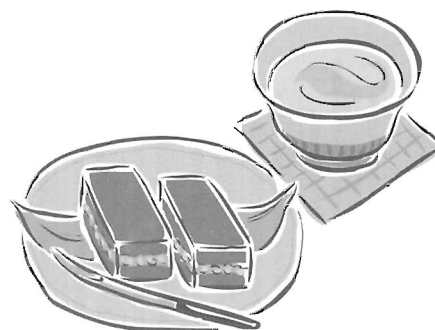
本学ではすでにFD活動の主要な柱のひとつである「学生による授業評価アンケート」を、前期・後期の両 Semester において全講義科目について行ってきました。FD委員会としては、これをどのように教育の改善につなげていくかということ、そのアンケートの内容・統計的処理の仕方も含めて、必須の課題として取り組んでいます。平成20年度末までにはそれらに関して一定の答えを出したいと思っています。

また、大学FD委員会が発足初年度に最初におこなったことは、川島天津神戸大学大学推進機構教授を演者としてお迎えしての「第1回FD講演会」の主催でした。演題は「大学設置基準の改正と高等教育の質の向上——学習成果・アセスメント・FD」で、平成20年1月22日(火)15時から17時にかけておこなわれ、講演後参加された多くの教員たちと演者との間で熱心な議論が交わされました。講演会は、FDに関して本学教員が是非とも知っておくべきことは何かについて各自理解を深め、それを全教員が共有するためには非常に重要なものと考えられます。しかし、当然、それだけでは十分ではありません。さらにFDの理解を深めるには、研修に参加することが是非とも必要となります。それも大学を挙げての取り組みの中でおこなわれなければなりません。そういう意味でFDフォーラム・研修会の開催・参加ということがFD委員会の重要な活動となります。現在のところはFD委員の参加に限っていますが、いくつかのFDフォーラムに参加してFD活動の識見を深め、現在の各大学のFD活動の現状認識の把握をおこなっています。

さらに、本年度の11月から12月にかけて、教員の教授活動の相互研鑽の一環としてピア・レビューをおこなう予定にしています。数人の同僚が公開授業に参加して、それについて率直に議論する場が設定されます。教育とは何か、誰のための、何のための教育か、その教授方法はどうかあるべきか、教授すべき内容は何か等が議論されることになろうかと思っています。自由な未来志向的な議論のなかで充実した教育への取り組みが共有化されることが、何よりも大切かと思っています。教員相互の信頼関係があつてこそ、大学教育の改善という困難な課題に大学を挙げて真正面から取り組むことが可能となると

考えていますが、まさしくその信頼関係を築き上げていくという方向でピア・レビューに取り組みたいと思っています。そして何よりも大事なのが、学生との信頼関係をどのように構築していくかということだろうと思います。ここに学生参加のFDを目指さなければならない理由があります。それはどのように取り組んでいけばよいのでしょうか。

最新の学習方略・教育技術に基づく視点からは、座学中心の授業形態だけでは学生の授業への参加意識を高めることはできません。問題を学生自らが発見し解決していくことを目指した教育システム(POS)のなかで、薬学、広くは医療に関する知識を深めていく必要があります。さらには医療者として必要な倫理性、患者の自律性を尊重しながらケアを行っていく姿勢等々を確立していくことが、患者中心の医療が要請されるなかで、とりわけ重視されてきています。このような医療への構えを形成していくことこそが、医療教育の最も重要な課題だと考えられます。しかしこのことは、従来のトップダウンの教育体制においては実現不可能です。何が現代医療のなかで必要とされているのかを問うなかで、教育の目標を教員相互、および教員と学生の間で共有していくこと、それを基礎にして大学教育の改善に大学全体で取り組むことを積極的に促していくことがFD委員会の主要な任務ではなかろうかと思っています。



平成20年度前期授業・実習評価アンケートの結果を報告いたします。平成19年度後期授業・実習評価アンケートの回収率は、全学年では59.0%でありましたが、今回の授業評価アンケートの回収率は若干改善され、全学年で63.8%であり、前回と同様に学年進行に伴い低下する傾向を示しました（1年次生：72.1%、2年次生：67.0%、3年次生：61.9%、4年次生：36.4%）。一方、実習・演習評価アンケートの回収率は、1年次生94.2%、2年次生90.2%、3年次生94.6%であり、授業評価アンケートの回収率と比較して、非常に高い数値を示しました。授業評価アンケートと実習・演習評価アンケートの回収率の差は、学生の出席率やアンケート調査の実施時期ならびに方法によるものと思われる。また、授業評価アンケートを踏まえた結果を学生に十分にフィードバックされていないことが、アンケートの回収率の低下に繋がっているものと思われる。現在、FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会におきまして、授業評価アンケートと実習・演習評価アンケートの内容、実施時期、実施方法ならびに教員、学生へのフィードバックなどについて検討しているところです。

次に、今回のアンケート結果においては、前回（平成19年度後期）と同様に、ほぼすべての項目で比較的高い数値が得られました。このうち、設問項目13（あなたはこの授業によく出席しましたか）は、いずれの学年においても最も高い数値（全学年の平均4.70）であり、一方、設問項目17（あなた自身、授業を理解するよう努力していましたか）は最も低い数値（全学年の平均3.28）でした。この結果は平成19年度前期・後期授業評価アンケート結果と全く同様の傾向でした。実習・演習評価アンケートにおいても同様の傾向が認められました。本学は出席制を採用していることから、出席率が高いことは当然であります。授業に目的意識をもたず漫然と臨んだ場合、学習効果は極めて低いものと思われます。このような対応では、知識が十分に身につかず、学年進行とともにますます授業が理解できないことになりかねません。これを裏付ける結果として、設問項目

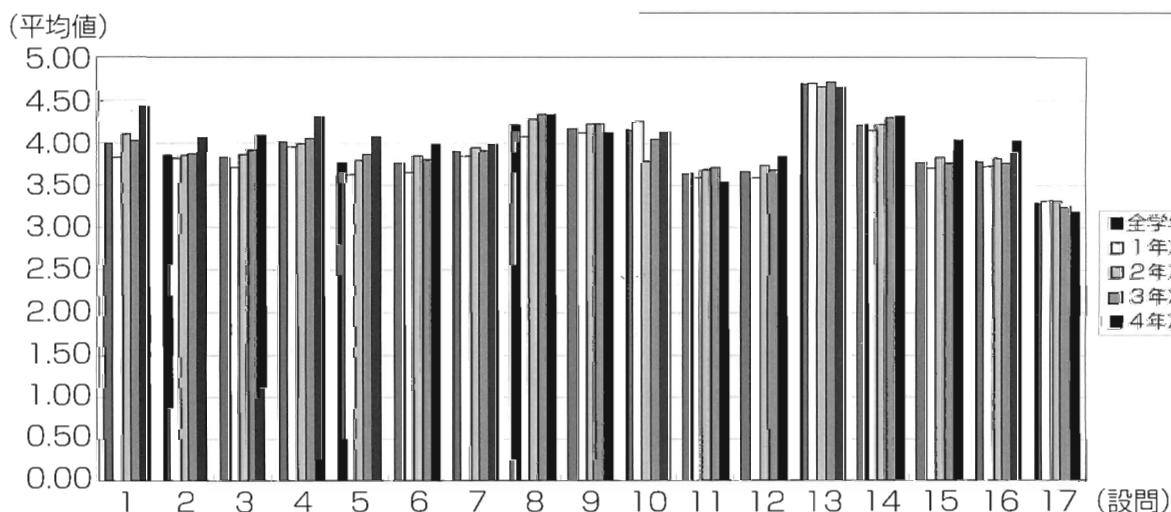
11（授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか）については、学年進行に伴い、授業内容が難しいまたは非常に難しいと感じている学生の割合が増加していることを挙げることができます。昨今、ゆとり教育や少子化などによる基礎学力の低下および学習意欲の低下が大学教育における大きな問題点となっています。本学においても、その問題点を避けて通ることはできません。今後、全教員が積極的に意識改革を行い、教育内容および教育方法について早急に改善しなければならないと考えています。薬学部は、化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学からなる基礎薬学分野の上に、専門、高度化された応用薬学、医療薬学、臨床薬学などの分野が幅広く並ぶ構造になっております。したがって、本学の学生は、低学年において基礎薬学分野の科目を十分に理解し、高学年においては、基礎薬学分野に裏打ちされた形で専門科目を修得してほしいものと考えています。このような基礎から臨床までの知識・技能を有する「pharmacist-scientists」の養成こそが、社会的要請に応える本学の道であると思います。学生諸君の今以上の健闘を期待しております。特に、3年次生（平成18年度入学生）は、今秋に薬学科（6年制）または薬科学科（4年制）を選択しなければなりません。薬学科（6年制）を選択した場合、4年次後期に共用試験があり、これに合格しなければ、5年次後期に予定されている実務実習に参加することができません。共用試験は、学生が実務実習を受けるに相応しい知識・技能・態度を有しているか否かを評価するものです。一方、薬科学科（4年制）を選択した場合、4年次で特別研究が始まりますが、研究を行うには基礎的な知識と技能が要求されることを実感するでしょう。学生諸君には気持ちを引き締めて勉学に励んでいただきたいと思います。願っております。

教務部委員会は教務課とともに、教職員と学生が互いに顔がよく見え、学生にとって満足できる学習環境を提供できるよう、更なる改善をしていく所存であります。今後とも、ご協力を賜りますようよろしくお願い致します

平成20年度前期授業評価アンケート集計

	全学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
延べ履修人数	14,842名	5,433名	3,871名	3,712名	1,826名
延べ回答人数	9,471名	3,915名	2,593名	2,298名	665名
回答率	63.8%	72.1%	67.0%	61.9%	36.4%

回答は、5-そう思う（5ポイント）、4-どちらかといえばそう思う（4ポイント）、3-どちらともいえない（3ポイント）、2-あまりそうは思わない（2ポイント）、1-そうは思わない（1ポイント）から選択。但し、設問2、9、10については、0-該当しない（0ポイント）を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。



〔設問〕

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書やその他（プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター）による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか（板書等を使用しなかった場合は0を記入してください）
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていましたか
4. 授業は、「授業の内容」（シラバス）に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. 指定されたテキストや教材は適切に使用されていましたか（指定されていない場合は0を記入してください）
10. 休講があった場合、その補いは十分にされていたか（休講がなかった場合は0を記入して下さい）
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。次の基準で回答してください
(5-非常に難しい、4-難しい、3-適切、2-簡単、1-簡単すぎる)
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください
(5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない)
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力（予習・復習等）してましたか

全年生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか は思わない	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	400	37.5%	36.3%	16.7%	6.7%	2.6%	-	0.1%
2	385	30.4%	34.8%	22.7%	7.0%	2.6%	2.2%	0.3%
3	382	28.8%	36.7%	24.8%	7.1%	2.4%	-	0.3%
4	401	34.1%	36.6%	25.9%	1.9%	1.1%	-	0.5%
5	376	26.6%	37.0%	24.8%	8.2%	3.2%	-	0.2%
6	376	26.9%	34.3%	28.8%	7.0%	2.7%	-	0.2%
7	389	30.3%	36.5%	26.8%	4.4%	1.7%	-	0.2%
8	422	46.5%	34.2%	14.5%	2.8%	1.7%	-	0.3%
9	418	43.0%	30.1%	15.0%	3.6%	1.4%	6.6%	0.3%
10	416	14.1%	6.0%	5.6%	0.8%	0.9%	71.9%	0.7%
11	363	13.7%	38.9%	44.4%	1.9%	0.6%	-	0.4%
12	366	19.3%	38.4%	32.9%	6.8%	2.2%	-	0.4%
13	470	76.8%	16.5%	5.3%	0.7%	0.3%	-	0.4%
14	422	43.7%	37.7%	15.3%	2.2%	0.7%	-	0.4%
15	377	25.6%	37.5%	27.2%	6.4%	2.9%	-	0.4%
16	378	26.3%	37.1%	26.7%	6.7%	2.7%	-	0.5%
17	328	13.9%	26.6%	39.6%	12.3%	7.2%	-	0.5%

1年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか は思わない	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	383	34.7%	31.9%	19.0%	9.7%	4.5%	-	0.1%
2	381	30.1%	32.6%	24.4%	7.5%	2.9%	2.2%	0.2%
3	370	25.9%	34.6%	26.9%	8.9%	3.6%	-	0.2%
4	395	33.0%	34.3%	28.5%	2.7%	1.3%	-	0.2%
5	362	24.4%	34.0%	25.4%	11.4%	4.8%	-	0.1%
6	364	24.9%	31.1%	30.9%	9.3%	3.7%	-	0.2%
7	384	30.1%	34.6%	26.8%	6.2%	2.3%	-	0.1%
8	408	43.1%	32.0%	17.1%	4.4%	3.2%	-	0.2%
9	412	39.7%	29.3%	16.8%	4.1%	1.2%	8.7%	0.2%
10	426	24.5%	10.2%	7.7%	1.2%	1.0%	55.1%	0.4%
11	358	13.4%	36.6%	45.4%	3.1%	1.0%	-	0.4%
12	358	17.9%	36.3%	33.9%	8.5%	3.0%	-	0.4%
13	471	79.1%	13.5%	5.9%	0.9%	0.3%	-	0.3%
14	415	41.4%	36.6%	17.8%	3.1%	0.8%	-	0.3%
15	369	24.6%	34.7%	29.5%	7.2%	3.8%	-	0.3%
16	372	26.4%	34.1%	27.6%	8.0%	3.5%	-	0.3%
17	331	15.5%	27.3%	37.4%	11.3%	8.2%	-	0.4%

2年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか は思わない	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	411	39.8%	38.1%	16.2%	4.2%	1.4%	-	0.3%
2	385	29.9%	34.4%	23.8%	7.1%	2.2%	2.3%	0.4%
3	386	29.1%	37.2%	25.3%	6.1%	1.9%	-	0.4%
4	399	31.6%	38.7%	26.6%	1.7%	0.9%	-	0.5%
5	379	26.6%	37.0%	26.8%	6.8%	2.4%	-	0.3%
6	384	30.1%	33.9%	27.7%	5.9%	2.1%	-	0.3%
7	394	30.9%	38.9%	24.7%	3.5%	1.6%	-	0.3%
8	428	47.8%	35.0%	14.5%	1.7%	0.5%	-	0.4%
9	423	46.0%	31.9%	15.0%	2.9%	1.1%	2.7%	0.5%
10	378	4.9%	2.4%	4.2%	0.2%	1.0%	86.0%	1.3%
11	368	15.1%	39.1%	43.8%	1.0%	0.5%	-	0.5%
12	373	21.2%	38.5%	33.0%	5.3%	1.6%	-	0.4%
13	467	74.4%	18.5%	5.7%	0.6%	0.4%	-	0.4%
14	422	41.6%	41.7%	14.0%	1.3%	0.9%	-	0.5%
15	382	26.3%	39.3%	26.2%	5.6%	2.2%	-	0.5%
16	382	25.6%	39.6%	26.6%	5.5%	2.0%	-	0.5%
17	330	12.8%	27.8%	41.3%	11.5%	6.1%	-	0.5%

3年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか は思わない	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	403	35.2%	41.1%	16.1%	6.0%	1.3%	-	0.2%
2	387	28.9%	38.2%	20.8%	6.5%	2.7%	2.7%	0.3%
3	392	30.7%	38.6%	23.3%	5.5%	1.6%	-	0.3%
4	405	35.0%	37.7%	24.2%	1.1%	1.1%	-	0.9%
5	387	27.6%	40.8%	23.5%	5.7%	2.0%	-	0.3%
6	380	25.6%	38.3%	28.0%	5.7%	2.1%	-	0.3%
7	391	28.9%	37.2%	29.7%	2.9%	0.9%	-	0.4%
8	434	49.7%	36.9%	11.1%	1.3%	0.7%	-	0.3%
9	423	45.3%	28.4%	11.6%	3.2%	2.2%	9.1%	0.3%
10	405	8.2%	3.5%	3.9%	1.0%	0.5%	82.2%	0.7%
11	370	14.1%	43.5%	40.5%	1.4%	0.1%	-	0.4%
12	368	18.4%	40.9%	31.9%	6.5%	1.9%	-	0.5%
13	472	76.9%	18.0%	4.0%	0.6%	0.0%	-	0.5%
14	431	49.0%	34.3%	13.8%	2.0%	0.3%	-	0.6%
15	376	24.2%	38.9%	26.9%	6.9%	2.6%	-	0.5%
16	376	24.9%	37.9%	27.3%	6.6%	2.7%	-	0.6%
17	324	12.3%	25.3%	41.7%	14.0%	6.1%	-	0.6%

4年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか は思わない	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	443	52.6%	39.1%	7.2%	0.8%	0.3%	-	0.0%
2	406	38.6%	37.9%	15.6%	5.0%	2.3%	0.6%	0.0%
3	409	37.6%	40.6%	15.9%	5.4%	0.5%	-	0.0%
4	431	46.8%	37.9%	14.6%	0.5%	0.2%	-	0.2%
5	408	35.5%	42.3%	17.7%	3.9%	0.6%	-	0.0%
6	398	31.1%	41.2%	24.2%	2.0%	1.5%	-	0.0%
7	398	34.6%	35.5%	25.3%	3.2%	1.5%	-	0.0%
8	434	50.8%	35.3%	11.1%	2.4%	0.3%	-	0.0%
9	413	42.9%	33.1%	16.2%	4.5%	1.7%	1.4%	0.3%
10	414	9.9%	4.7%	4.2%	0.2%	0.9%	79.5%	0.6%
11	353	9.0%	36.1%	54.3%	0.2%	0.5%	-	0.0%
12	384	22.9%	42.4%	30.4%	3.8%	0.5%	-	0.2%
13	466	72.2%	22.0%	5.0%	0.3%	0.3%	-	0.3%
14	432	47.1%	39.5%	11.4%	1.2%	0.5%	-	0.3%
15	404	33.5%	42.3%	19.2%	3.0%	1.5%	-	0.5%
16	402	32.6%	42.4%	19.8%	3.5%	1.2%	-	0.5%
17	317	14.3%	22.0%	38.6%	15.8%	8.9%	-	0.5%

大阪薬科大学の公開教育講座は「卒後教育講習会」として1983年に発足以来、本年度で26年目にあたります。これは全国薬科大学の公開教育講座としては最も長い歴史を持つものの一つであり、参加者も極めて多数にのぼっています。1992年からは「薬剤師の生涯教育」に焦点を絞るとともに、全国に先駆けて（財）日本薬剤師研修センターとの共催を決定し、現在に至っております。

2005年度からは、「くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」を基本テーマに、医薬品の適正使用をめぐる様々な問題点を取り上げ、その解決策について討論してまいりました。本年度も引き続き同じテーマで開催することにし、高齢化社会の到来を念頭に置いて、「がん」「脳梗塞」「緑内障」について、年3回にわたって開催いたしました。

本年度の開催を終え、延べ参加者数が1,339名（大阪薬科大学卒業生44.8%、他大学卒業生等55.2%）となり、参加者の皆様のアンケート結果によりますと概ね好評を得ております。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜物であると心より感謝しております。ご協力いただいた方々には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

最後に本講座の開催にあたり、ご共催いただきました（財）日本薬剤師研修センター並びに（社）日本薬学会近畿支部、ご後援いただきました（社）大阪府薬剤師会並びに大阪薬科大学同窓会に厚く御礼申し上げます。

第48回：平成20年5月17日（土） 14:00～17:35

①「抗がん剤の分子標的薬」

中外製薬株式会社 研究本部 創薬企画推進部 部長
岡部 尚文 先生

②「消化器がん化学療法一胃・大腸がんを中心に」

大阪医科大学 第二内科学教室 助教
後藤 昌弘 先生

第49回：平成20年7月19日（土） 14:00～17:35

①「脳梗塞治療薬の現状と今後」

田辺三菱製薬株式会社 薬理研究所 主任研究員
幸 敏志 先生

②「脳梗塞の薬物治療：急性期から再発予防まで」

国立循環器病センター 内科脳血管部門 医長
豊田 一則 先生

第50回：平成20年11月22日（土） 14:00～17:35

①「総説：緑内障」

大阪厚生年金病院 眼科部長 桑山 泰明 先生

②「緑内障治療薬の現状と開発状況」

参天製薬株式会社 研究開発本部 研究開発企画室長
宮脇 宣明 先生



第49回公開教育講座：幸 敏志先生



第49回公開教育講座：豊田一則先生



第50回公開教育講座：桑山泰明先生



第50回公開教育講座：宮脇宣明先生

主に市民の方を対象として実施している恒例の市民講座を、本年度も「健康とくすり」をメインテーマとして、第25回「食の安全について」(5月24日(土))・第26回「アレルギーについて」(10月25日(土))の2回にわたって開催いたしました。

これらの講演内容については、これまでの参加者の皆様のアンケート結果を参考にして決定し、出来るだけ多くの皆様のご希望に沿った内容となるように企画いたしました。同時に、「くすりの相談室」「薬用植物園の見学」も併せて開催し、「くすりの相談室」では第一線で活躍中の薬剤師の先生方に、くすりに関するさまざまな相談に応じていただきました。本年度は春・秋の2回開催となりましたが、あわせて395名もの参加者をお迎えし、活発な質疑応答を含め、成功裏に終えることができました。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜物であると心より感謝しております。ご協力いただいた方々には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、本講座の開講にあたり、ご共催いただきました高槻市、(社)日本薬学会近畿支部、(社)大阪府薬剤師会、(社)大阪府病院薬剤師会及び大阪薬科大学同窓会、並びにご後援いただきました大阪府、高槻市教育委員会及び高槻市薬剤師会に厚く御礼申し上げます。

第25回大阪薬科大学市民講座

日 時：平成20年5月24日(土) 13:00~16:10

場 所：大阪薬科大学 講堂(講義・実習棟1階)

演題/講師：

「食の安全に取り組む」

高槻市保健所保健衛生課食品衛生係 岡本 圭介 先生

「食の安全と残留農薬」

東京都健康安全研究センター残留物質研究科

永山 敏廣 先生

第26回大阪薬科大学市民講座

日 時：平成20年10月25日(土) 13:00~16:10

場 所：大阪薬科大学 講堂(講義・実習棟1階)

演題/講師：

「こどものアレルギーとアレルギーについての最近の話題」

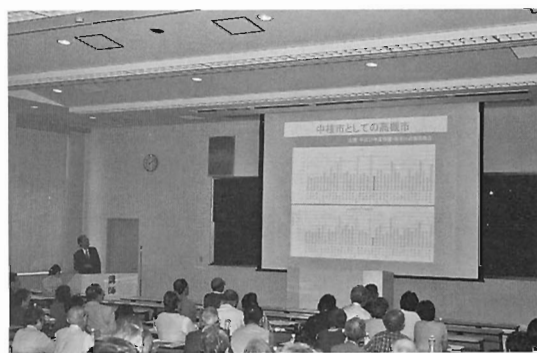
阿武山こどもクリニック院長 岡本 良三 先生

「現代病スギ花粉症について-疫学・IgE産生・治療」

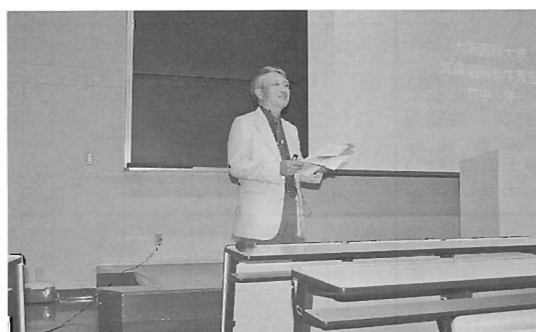
大阪医科大学耳鼻咽喉科学教室教授 竹中 洋 先生



第26回市民講座：岡本良三先生



第25回市民講座：講演風景



第26回市民講座：竹中 洋先生



第26回市民講座：くすりの相談室

今秋、米国発世界金融危機が拡大し、円高、株安が続
き、雇用不安が拡大しつつあります。本年度の本学学生
の進路・就職状況は、昨年同様、堅調に推移しています。
これは薬学教育6年制への移行に伴い、薬学部卒空白の
2年間(平成22年、23年)を埋める薬剤師求人増加が
病院、公務員、保険薬局、ドラッグストア業界等で顕著
に表われていることが背景にあります。

平成20年10月末現在の学部4年次生(56期生)の
進路・就職状況は表1に示す通りで、内定率は77.2%
(昨年度71.0%)となっています。現時点での進路未定
者の多くは、病院薬剤師を第一志望としている学生です。
今年は、学生の志望度大の病院の求人が例年より早く、
応募学生が殺到しています。仮内定をいただいている保
険薬局、ドラッグストア組の最終進路決定も、希望する
病院等からの求人待ちなど様子見があるのも例年通りで
す。本年度の進路・就職の特徴として、大学院進学者
31.3%(昨年度36.2%)が挙げられます。これは薬学
教育6年制が大きく影響しています。また、公務員内定
者も増加し、大阪府、京都市、奈良県、和歌山県等への
合格者が多数出ています。また、国家公務員Ⅱ種にも合
格者が出ましたが、本人は近畿の地方上級公務員(薬学
職)への就職を希望しています。さらに現在採用選考中
の自治体および独立行政法人国立病院機構の各医療セン
ター等の発表待ちもあり、さらなる増加が見込まれます。
薬業関連企業ではMR(医薬情報担当者)が10.7%
(昨年度13.1%)となっています。これは領域別ガイ
ダンスやインターンシップ等で職種の理解が進んだ結果と
考えています。

これらの状況を踏まえて、本学キャリアサポート部委
員会・キャリアサポート課では、個々の学生の価値観・
ニーズに応じた進路・就職支援をしています。

(表1)

平成20年度 4年次生(56期生)進路・就職内定状況

(平成20年10月31日現在)

区 分	男	%	女	%	計	%	
薬 局	9(13)	7.8	43(31)	22.5	52(44)	16.9(15.2)	
病 院・診 療 所	1(-)	0.9	14(10)	7.3	15(10)	4.9(3.4)	
病 院 研 修 生	3(-)	2.6	8(2)	4.2	11(2)	3.6(0.7)	
薬業関連企業	(MR)	15(17)	12.9	18(21)	9.4	33(38)	10.7(13.1)
	(内勤)	2(1)	1.7	7(3)	3.7	9(4)	2.9(1.4)
公務員・教職員	5(-)	4.3	14(3)	7.3	19(3)	6.2(1.0)	
大 学 院 進 学 (博士前期課程)	54(50)	46.6	42(55)	22.0	96(105)	31.3(36.2)	
各 種 学 校 進 学			1(-)	0.5	1(-)	0.3(-)	
そ の 他			1(-)	0.5	1(-)	0.3(-)	
内 定	89(81)	76.7	148(125)	77.5	237(206)	77.2(71.0)	
未 定	27(23)	23.3	43(61)	22.5	70(84)	22.8(29.0)	
合 計	116(104)	100.0	191(186)	100.0	307(290)	100(100.0)	

※ () 内は、昨年10月31日現在を示す。

1) 領域別キャリアサポートガイダンス

当ガイダンスでは、学生の職種選択・進路決定に
役立つ講演を実施し、アップツータイトに良質です
ぐに役立つ情報を学生に提供しています。低年次生
へのキャリアサポートとして自己理解、コミュニケー
ション、プレゼンテーション能力等のテーマで外
部専門講師を招聘し、各学年に応じて実施してい
ます。また、領域別キャリアサポートガイダンスは、
大手製薬企業の医薬品開発職、CRO(医薬品開発
業務受託機関)、大手化粧品企業の研究職、各企業
等のご協力のもと実施しています。

2) インターンシップ

大学院学生1年次生と学部学生3年次生を中心
に平成20年8月に大手製薬企業等15社にお願いし
て、学内選考を経た37名でインターンシップを実
施しました。臨床開発職、品質管理・製造職、CRO
職(医薬品開発業務受託機関)、医薬品卸の管理
薬剤師、MR職や医薬品卸の管理薬剤師業務等の
就職体験で、参加学生にとって薬業関連企業を
知る貴重な体験となったものと思われます。

キャリアサポート部委員会・キャリアサポート課
では、従来通り一人ひとりの適性や能力に
応じてきめ細かな指導に努めています。関係各位
におかれましても、本学学生の就職につ
きまして、ご指導・ご支援を賜ります
ようよろしくお願い申し上げます。

なお、平成20年度の大学院博士前期課程2年次生
(33期生)の進路・就職内定状況は表2の通りです。

(表2)

平成20年度 大学院博士前期課程(33期生)
進路・就職内定状況

(平成20年10月31日現在)

区 分	男	%	女	%	計	%	
薬 局	1(-)	4.0	(1)		1(1)	1.8(1.6)	
病 院・診 療 所			1(1)	3.3	1(1)	1.8(1.6)	
病 院 研 修 生			(1)		(1)	(1.6)	
薬業関連企業	(MR)	3(-)	12.0	3(2)	10.0	6(2)	10.9(3.3)
	(内勤)	12(17)	48.0	12(19)	40.0	24(36)	43.6(9.0)
公務員・教職員	2(1)	8.0	4(2)	13.3	6(3)	10.9(4.9)	
大 学 院 進 学 (博士後期課程)							
そ の 他							
内 定	18(18)	72.0	20(26)	66.7	38(44)	69.1(72.1)	
未 定	7(10)	28.0	10(7)	33.3	17(17)	30.9(27.9)	
合 計	25(28)	100.0	30(33)	100.0	55(61)	100(100.0)	

※ () 内は、昨年10月31日現在を示す。

本学の特待奨学生制度に基づき、特待奨学生の第四回表彰式（6月2日（月）：学部2～4年次生及び大学院1年次生の成績優秀者、11月6日（木）：大学院2年次生及び博士後期課程学生の研究成果優秀者）が行われました。本年度も上記制度の選考基準に則り、学部2～4年次生は平成19年度の成績から、大学院1年次生は大学院入試の成績から、それぞれの最優秀者、次席者、三席者が選考されました。また、大学院2年次生及び博士後期課程の学生については、10月24日（金）に実施されたプレゼンテーションの内容から大学院委員会において3名の研究成果優秀者が推薦されました。この制度は、薬剤師及び薬学研究者等を目指す本学の学生にとって大きな励みになっていること、また、繰り返し特待奨学生になることも可能ですので、次年度も勉学、研究及び課外活

動などに頑張ってください。

平成20年度 大阪薬科大学 特待奨学生（第4回） 表彰者一覧

現2年次生
安達 咲希 辻本 佳世 岩田知可子
現3年次生
小川 智子 林 春菜 谷川 真未
現4年次生
下寺美帆子 山中 里紗 久保田しずか
現大学院修士課程1年次生
山根 一彦 鳴戸 佳子 木村 公洋
現大学院修士課程2年次生～博士後期課程
M2 勝田 陽介 M2 松本 千佳 M2 森 愛弥



特待奨学生表彰式



大学院学生による研究成果発表会



成績優秀者 特待奨学生



研究成果優秀者 特待奨学生

学生相談室だより

学生相談室相談員 岡 鈴佳

アンジェラ・アキの「手紙～拝啓十五の君へ」という曲を聴きました。この曲は十五歳の僕が大人になった自分に宛てた手紙と、大人になった僕がその手紙を読んで書いた返信で歌詞が構成されています。

『十五の僕には誰にも話せない悩みの種があるのです』

『大人の僕も傷付いて眠れない夜はあるけど苦くて甘い今を生きている』

十五歳という思春期まっただ中の心情も、大人になった後そこを振り返ったときの心情もどちらもとてもうまく表現されてるなぁと思います。もうすでに中年の年齢に差し掛かった私は当然大人になった僕に共感しながらこの曲を聴くわけですが、大学生のみなさんはどちらに共感しながら聴くのでしょうか。

思春期の心の中というのはその当人にはなかなか言葉で表現するのは難しく、そこを通り過ぎてしまうと案外忘れてしまうようなものなのですが、こうしてアーティストのような人がうまく表現してくれるとああそっ

たよなぁと思い出すことがあります。それと同じように、相談室で大学生のみなさんの話を聴きながら「ああそっだったよなぁ」と思うことがあります。将来の進路に不確実な希望と不安を抱いていたり、毎日顔を合わず友達関係に悩んだり、好きな人の言動に一喜一憂したり、親に対する感謝と反発に葛藤していたり。そしてそういう悩みすべてが自分でも認めたいような認めたくないような複雑な心境で。

そんな話を聴きながら「ああそっだったよなぁ」などと思う私はやはりもう青年期も過ぎたということで、一抹の寂しさも覚えるわけですが……。でも歳を取ると確実に自分について納得して受け入れられる部分が増えていきます。そしてその分、肩の力を抜いて生きることができるようになる気がします。みなさんより少し先を行く私も、アンジェラ・アキが歌っているように『自分とは何でどこへ向かうべきか問い続ければ見えてくる』と声をかけたいと思います。

五月祭、球技大会に続く本年度最大の学生主体の行事である第43回大薬祭が10月31日(金)～11月2日(日)の3日間、昨年度と同様全日好天に恵まれる中、次のような日程・場所で開催されました。

10月31日(金)

グラウンド…ドッチボール大会

体育館メインステージ…クイズネブサゴン、ベストカップルコンテスト、Daiyaku Collection 2008

講堂…スクリーンDEマリカー

講義棟1階ステージ…富田オリンピック、アカペラライブ、オンナEXILE!!、ESS部の歌、LIVEオー!!ザック、Daiyaku女装パラダイズ

講義棟・その他…模擬店

大学会館…展示発表会、ライブ喫茶

11月1日(土)

テニスコート…フリーマーケットin大薬

体育館メインステージ…DANCE BATTLE in DAIYAKU、Rolling Bingo、○×クイズ、吉本お笑いライブ

講堂…スクリーンDEマリカー

講義棟1階ステージ…模擬店CM、ハーベスタライブ、サイエンスショー、アンサンブルコンサート、身内自慢コンテスト

講義・実習室・その他…科学実験教室、薬大流肝試し、トレジャーハント、模擬店

大学会館…展示発表会、ライブ喫茶

薬用植物園…薬用植物園見学会

11月2日(日)

テニスコート…フリーマーケットin大薬

体育館メインステージ…ケットシーライブ、ミス・コスモス、Rolling Bingo、薔薇祭

柔剣道場…体力測定会

講堂…スクリーンDEマリカー

講義棟1階ステージ…模擬店CM、ジャグリング、サイエンスショー、大腕相撲、ラズライクエアライブ、和太鼓演舞

講義・実習室・その他…科学実験教室、薬大流肝試し、トレジャーハント、模擬店

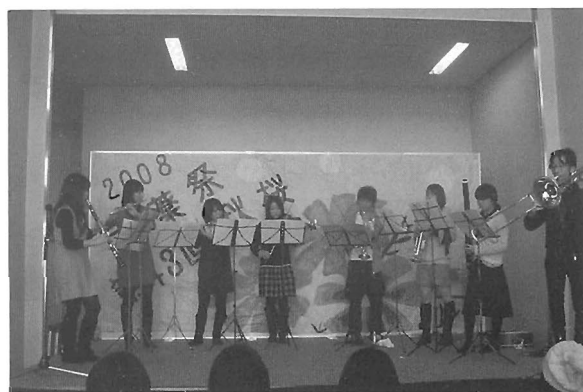
大学会館…園児の発表会、コーラス部発表会、展示発表会

薬用植物園…薬用植物見学会

本年度の大薬祭は、新学舎建設工事によりグラウンド、中庭付近、駐車場等が使用できない状況でしたが、大薬祭実行委員の皆さんがイベント内容等の新規導入を含め、創意工夫を凝らし、例年以上に大薬祭を盛り上げてくれました。今回も何事にも用意周到で、準備の段階、当日の運用、また後片付けも非常に計画的で順調でした。スタッフ全員が、テーマの“COSMOS”の字が目立つグリーンのパーカーを羽織り、右に左に元気に動き回っていたのが印象的でした。イベントが盛り沢山でしたので残念ながら私も全部を回れなかったのですが、以下、特に印象に残ったものを中心にこの3日間を振り返ってみます。

例年はバレーボール大会で幕開けとなりますが、今年は工事で狭くなっているグラウンドを考慮して、“ドッチボール大会”が行われ、優勝チームはバスケットボール部(バスケットボール部)でした。1日目の最後のイベントは“Daiyaku Collection”でしたが、優勝チームはコーラス部でした。この間、色々なイベントや模擬店が狭いなりに随所に工夫を凝らし、効率良く配置されていました。

例年2日目の目玉は最後に行なわれるリサイタルですが、その時間までも沢山の新しいイベントがあちらこちらで併行して行われましたが、土曜日ということもあり、学外の一般の方の入場者も多く、大変盛況でした。特に今回大成功だったのは講義棟1階に設営されたステージで、このステージで行われた「ハーベスタライブ」、「サイエンスショー」、「アンサンブルコンサート」、「身内自慢コンサート」など目新しいものも多く、皆さん大変楽しんでおられました。



アンサンブルコンサート

た。今年のリサイタル“吉本お笑いライブ”は、テレビでお馴染みの“エド・はるみ”、“サバンナ”、“海原やすよとこ”、“ジャルジャル”の来演でした。昨年は入場料が無料ということもあり、早くから整理券がなくなりましたが、本年は有料ということの影響でしょうか、当日の朝はまだ入場券が少し残っている状態でしたが、開場前にはきれいにすべて売り切れになってしまいました。終了時間を少しオーバーしましたが、何の混乱もなく無事終了し、大変良かったといわれる人が多かったリサイタルでした。また、リサイタル以外でも例年行われている“科学実験教室”、“薬用植物園見学会”、“お茶会”、“フリーマーケット”、“トレジャーハント”など、どれも人気があり、多くの方がそ



科学実験教室

それぞれのスタイルで大葉祭を楽しんでおられたと思います。



園児の発表会

3日目で印象的なのは、“園児の発表会”、“ミス・コスモス”、“薔薇祭”、そして講義棟1階ステージの“ジャグリング”、“和太鼓演舞”だったでしょうか。学生会館ホールで行われた群家幼稚園による発表会は、ビデオやデジカメ片手の御家族の皆さんの熱い声援の中、小さい園児たちが一生懸命演じている姿が愛らしくもあり、微笑ましくもありました。お昼頃体育館メインステージでは「ミス・コスモス」が、テレビでお馴染みの“やのばん”さんの軽妙な司会で行われましたが、いずれ劣らぬ6名の艶やかな女性の中から、審査員と会場との投票の結果、3年次生の木村亜里沙さんが見事ミス・コスモスに選ばれました。また、講義棟1階ステージでは、関西大学の学生たちによる「ジャグリング」、高槻北高校の生徒による「和太鼓演舞」などの新鮮なイベントも大変楽しく見させていただきました。



和太鼓

そして大葉祭で最後を華やかに飾ったのは、やはり例年同様“薔薇祭”でした。本年度は陸上競技部、柔・剣道部、テニスサークル・レボリューションの三つ巴の接戦の結果、柔・剣道部が二連覇を達成しましたが、いつも女性軍にやや押され気味の男性軍が、このときとばかり元気一杯、一糸乱れず演じる姿が感動的でしたし、大いに安心しました。男性軍バンザイ!! 来年度の栄冠はどこに輝くのでしょうか? 今から楽しみです。

また、出店のクラブ・サークルがそれぞれ工夫を凝らし、お客さんの呼び込み合戦も盛んだった模擬店も大変盛況で、初めて行われた模擬店コンテストの優勝チーム

は、飲食系では「サッカー部」、イベント系では「バレーボール部」でした。

そして、9,000名を超える入場者がありました本年度の大葉祭も最終日と翌日の見事な後片付けをもって、無事終了しました。本年度のスタッフの皆さんが、一生懸命、精力的に準備してくれた贈り物なのでしょうか。この3日間は天候に恵まれ、病人やけが人もなく、また事故や揉め事もなく、大変盛り上がり爽やかな第43回大葉祭でした。来年度は新しい学舎が竣工し、中庭も整備され、広いスペースで大葉祭を行なうことができますので、本年度とまた違った、素晴らしい大葉祭が見られるものと期待しています。



DaiyakuCollection

最後になりましたが、早くから準備にとりかかり、陰で地道に支えて盛り上げて下さった中居 寛大葉祭実行委員長、角野友香同副実行委員長、矢野睦美学友会執行委員長はじめ実行委員のスタッフの皆さんに心より厚く感謝いたします。また、イベントの参加や模擬店で活躍してくれたクラブ・サークルなどの学生諸君、審査員・イベントへの協力や当日参加して頂きました教職員の皆様、近隣の人達、フリーマーケットに出店してくださっ



フリーマーケット

た方々、ご寄付をいただきました育友会、同窓会、大学当局、会社・店舗、更に当日の警備員の方々、高槻市営バス、高槻警察署及び多くの関係諸氏・団体に、この紙面をお借りしまして厚く感謝申し上げます。本当に皆様ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。学生の皆さん、教職員の皆さん、来年はもっともっと大葉祭に参加して大いに楽しみましょう!!

各課だより

総務課

■人 事

<大学関係>

名誉教授（平成20年4月1日付）

栗原 拓史

池田 潔

坂田 勝治

客員研究員（平成20年1月1日付）

山元 章示

（平成20年7月1日付）

林 哲也

森 龍彦

（平成20年11月1日付）

河野 龍而

非常勤講師（平成20年9月16日付）

<学 部>

伊藤 信也（異文化言語演習2）

井上 径子（英語2）

大川 裕也（英語2）

奥村沙矢香（英語4）

桂山 康司（異文化言語演習2）

鶴 真一（フランス語3）

中川 俊正（病原微生物学）

中村 恵（ドイツ語3、異文化言語演習2、人間と文化4eドイツ語・フランス語）

林 恭平（生物統計学演習）

林 武文（情報科学）

樋口 久（英語2）

藤本 幸治（異文化言語演習2）

榎矢 桂一（ドイツ語3、異文化言語演習2、人間と文化2）

Joseph Michael Jacobs（英語4）

Judith Lynn Ritter（英語4）

（平成20年10月16日付）

下川 敏雄（情報科学）

併 任（平成20年4月17日付）

大学院博士前期課程指導教員 土屋 孝弘（助 教）

（平成20年9月1日付）

防火管理者 土井 勝（教 授）

退 任（平成20年8月31日付）

防火管理者 石田 寿昌（教 授）

<法人関係>

理事長就任（平成20年6月25日付）

矢内原千鶴子

■事務組織の変更

（平成20年10月1日付：平成20年9月30日付理事会承認）

<変更前>

<変更後>

入試・広報課

→

入試課

■研究助成

（財）武田科学振興財団

藤森 功（生体防御学研究室講師）

研究題目「間葉系幹細胞から骨芽・脂肪細胞への分化における脂質メタボリズムの機能解明」

■海外出張

市川 隼人 助教（有機分子機能化学研究室）

<出張期間：平成20年6月28日～7月5日>

23rd International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur発表（ロシア）

谷口 雅彦 准教授（生薬科学研究室）

芝野真喜雄 講師（生薬科学研究室）

<出張期間：平成20年8月24日～9月2日>

薬用植物園の現地調査および採集（中国）

小林 祐次 客員教授（創薬基盤科学研究室）

<出張期間：平成20年8月31日～9月12日>

30th European Peptide Symposium発表（フィンランド、スウェーデン、デンマーク）

田中 一彦 教授（臨床薬理学研究室）

加藤 隆児 助手（臨床薬理学研究室）

<出張期間：平成20年9月23日～10月3日>

TDM国際カンファレンス発表、研究発表打ち合わせ（ポーランド、イギリス）

岩永 一範 講師（薬剤学研究室）

<出張期間：平成20年10月11日～10月18日>

15th North American Regional Meeting学会発表（アメリカ）

恩田 光子 講師（臨床実践薬学研究室）

<出張期間：平成20年11月7日～11月9日>

22nd Federation of Asian Pharmaceutical Associations Congress学会発表（シンガポール）

<出張期間：平成20年11月30日～12月6日>

薬剤使用状況等に関する調査研究（アメリカ）

■学位記授与式

平成20年9月26日（金）午前11時30分より大会議室において、平成20年9月学位記授与式（26名：学部25名（薬学科11名、生命薬学科14名）、大学院博士後期課程1名）が挙行されました。



■名誉教授称号授与式

平成20年10月30日（木）午前11時30分より学長室において、池田元教授、坂田元教授に対する大阪薬科大学名誉教授称号授与式が挙行されました。



■寄 付

本学卒業生、故長澤壽久子氏より寄付金

1,000万円（新学舎建設関係として活用予定）

平成20年度 後期行事予定
〈学部〉

平成20年

8. 28 (木) 前期再試験受験者発表 (1~3年次生)
 8. 29 (金) 平成21年度大学院修士課程一般入学試験合格者発表
 8. 30 (土) 平成21年度編入学試験 (H方式)
 9. 1 (月) 前期再試験 (4年次生・1~4年次全科目)
 { 9月6日 (土) を含む
 9. 11 (木)
 9. 2 (火) 前期再試験 (1~3年次生) 9月6日
 { (土) を含む
 9. 11 (木)
 9. 8 (月) 平成21年度編入学試験 (H方式) 合格者発表
 * * * * *
 9. 16 (火) 後期授業開始 (1~3年次生)
 9. 16 (火) キャリアサポートガイダンス「学内企業セミナー (研究・臨床開発職等)」(大学院1年次生他)
 9. 18 (木) 月曜講義の振替開講日 (1~3年次生)
 9. 22 (月) 特別再試験受験者発表 (4年次生)
 9. 24 (水)
 { 第2回薬学総合演習総合試験 (4年次生)
 9. 25 (木)
 9. 24 (水) 後期選択科目 (1~3年次生) 履修届提出締切 (教務課) 午後3時
 10. 6 (月)
 { 特別再試験 (4年次生) この期間の月曜日
 12.15 (月)
 10.17 (金) 平成21年度 (第2次) 大学院修士課程一般入学試験
 10.24 (金) 平成21年度 (第2次) 大学院修士課程一般入学試験合格者発表
 10.25 (土) ・27 (月)
 第3回薬学総合演習総合試験 (4年次生)
 10.30 (木) 第43回大薬祭準備 (午後臨時休講)
 10.31 (金)
 { 第43回大薬祭 (10月31日臨時休講)
 11. 2 (日)
 11. 3 (祝) 平成21年度指定校制推薦入学試験 (R方式)
 11. 8 (土) 平成21年度公募制推薦入学試験 (S方式) ・帰国生徒特別選抜入学試験 (K方式)
 11.20 (木) 平成21年度公募制推薦入学試験 (S方式) ・指定校制推薦入学試験 (R方式) ・帰国生徒特別選抜入学試験 (K方式) 合格者発表
 11.29 (土) ・12. 1 (月)
 第4回薬学総合演習総合試験 (4年次生)
 12.11 (木) 実験動物慰霊祭
 12.13 (土) 平成20年度長期病院実務実習報告会 (4年次生長期病院実務実習コース)
 12.24 (水) 月曜講義の振替開講日 (1~3年次生)
 12.24 (水) 後期授業終了 (1~3年次生)
 12.24 (水) ・25 (木)
 第5回薬学総合演習総合試験 (4年次生)

平成21年

1. 7 (水)
 { 後期授業予備日
 1. 9 (金)
 1.13 (火)
 { 後期定期試験 (1~3年次生)
 1.23 (金)
 1.16 (金) 平成21年度大学入試センター試験実施準備 (午後)
 1.17 (土) ・18 (日)
 平成21年度大学入試センター試験〔センター試験利用入学試験 (C方式)〕
 1.26 (月) 後期定期試験 (1~3年次生) 欠席届提出締切 (教務課) 午後1時
 2. 1 (日) 平成21年度一般入学試験 I (F方式) [本学・駿台予備学校大阪南校・RCC文化センター・高松商工会議所会館]
 2. 4 (水) ・5 (木)
 薬学総合演習正規試験1 (4年次生)
 2. 6 (金) 後期再試験受験者発表 (1~3年次生)
 2. 7 (土) 平成21年度センター試験利用入学試験 (C方式) ・一般入学試験 I (F方式) 合格者発表
 2. 9 (月) 平成21年度一般入学試験 II (G方式) [本学・駿台予備学校大阪南校・RCC文化センター]
 2.12 (木) 後期再試験 (1~3年次生) 2月14日
 { (土) を含む
 2.24 (火)
 2.13 (金) ・14 (土)
 薬学総合演習正規試験2 (4年次生)
 2.17 (火) 平成21年度一般入学試験 II (G方式) 合格者発表
 2.23 (月) ・24 (火)
 薬剤師国家試験全国統一模擬試験 (4年次生)
 2.24 (火) 卒業生発表 (教務課)
 2.24 (火) 特別再試験受験者発表<旧カリキュラム3年次生>
 3. 2 (月)
 { 特別再試験<旧カリキュラム3年次生>
 3. 5 (木)
 3. 7 (土) ・8 (日)
 第94回薬剤師国家試験 (厚生労働省)
 3.14 (土) 第56期学部学位記授与式および第33期大学院学位記授与式
 3.17 (火) 進級者発表・未修得科目発表 (教務課)

平成20年度 後期行事予定 (大学院)

平成20年

- 9.26 (金) 後期特論開始
- 9.29 (月) 後期特論選択科目履修届提出締切午後3時
(教務課)
- 10.1 (水) 平成21年度(第2次) 修士課程一般入学
試験出願受付
- 10.8 (水)
- 10.17 (金) 平成21年度(第2次) 修士課程一般入学
試験
- 10.24 (金) 平成21年度(第2次) 修士課程一般入学
試験合格者発表
- 10.24 (金) 大学院特待奨学生選考(申請者発表会)
- 12.22 (月) 後期特論終了

平成21年

- 1.19 (月) 平成21年度博士後期課程入学試験出願受
付
- 1.26 (月)
- 2.5 (木) 平成21年度博士後期課程入学試験
- 2.12 (木) 修士学位論文提出期限午後1時(教務課)
- 2.18 (水) 平成21年度博士後期課程入学試験合格者
発表
- 2.25 (水)
修士学位論文発表会
- 2.26 (木)
- 3.6 (金) 平成20年度修士課程修了者発表
- 3.14 (土) 第33期大学院学位記授与式

学位授与

[博士]

博士(薬学)男子 1名 女子 0名 合計 1名

博第19号 博士(薬学) 神野 伸一郎(臨床薬学)
キサントシン系色素の分析化学的利用と創製に関
する研究

(平成20年9月26日付)

論博第54号 博士(薬学) 加藤 隆児
細菌感作が薬物体内動態に及ぼす影響とその
要因に関する研究

(平成20年6月26日付)

[学士]

学士(薬学)薬学科 11名 生命薬学科 14名
男子 8名 女子 17名 合計 25名

(平成20年9月26日付)

キャリアサポート課

【卒業後3年の就職動向アンケート調査結果報告ー平成16年度卒業生(52期生)調査結果】

本学ではますます多様化・高度化する薬業界の動向やニーズを的確に知り、学生の進路・就職指導に反映させるため、平成12年度卒(48期生)より卒業後3年を経過した本学OB・OGの方々のご協力を得て、卒業後3年間の就職状況に関するアンケート調査を実施しています。そこで本年も、平成16年度卒業生(52期生)にお願いして同じ調査を実施させていただきました。

本調査によって、52期生も卒業後3年間で23.1%(51期生:21.8%)が転職しているという結果が得られました。これは全国大学新卒者の3年後の動向

(33%)に比して、少なくなっています。アンケート回答者52期生78名(31.3%)中、転職した18名を分析してみますと、卒業後から最初の転職までの平均月数は各職種平均で16.2ヵ月でした。

今回の調査で、卒業後3年の就職動向アンケートは48期~52期まで5年連続実施することができました。5年間合計でアンケート結果は対象者1,414名から、回答を得たのは401名(28.4%)(表1)で、転職までの平均月数は5年間平均で17.3ヵ月でした。(表2)

表1: 卒業後3年後の就職動向アンケート(5年間)

H16	■アンケート対象: 249名(回答78名 31.3%)	人数	%
		卒業後、転職の有無	249
	1. 転職した	18	23.1
	2. 転職していない	60	76.9
	合計	78	31.3
5年間合計	■アンケート対象: 1,414名(回答401名 28.4%)	人数	%
		卒業後、転職の有無	1,414
	1. 転職した	96	23.9
	2. 転職していない	305	76.1
	合計	401	28.4

表2：転職までの期間（平均月数）－ 卒業後3年のアンケート調査より

職 種	H16 (平均月数)	人 数	5年間 (平均月数)	人 数 合 計
調剤薬局	19.7	3	17.5	32
ドラッグストア	17.0	1	17.4	10
病 院	15.9	11	17.1	39
企業MR	18.0	2	19.7	9
企業内勤		0	15.6	5
その他	4.0	1	4.0	1
全職種平均	16.2		17.3	

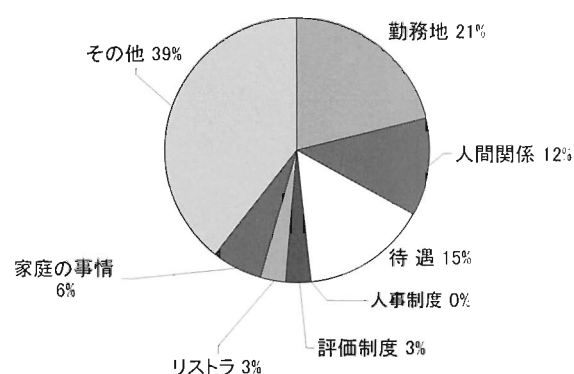
表3：転職理由－ 卒業後3年のアンケート調査より

複数回答

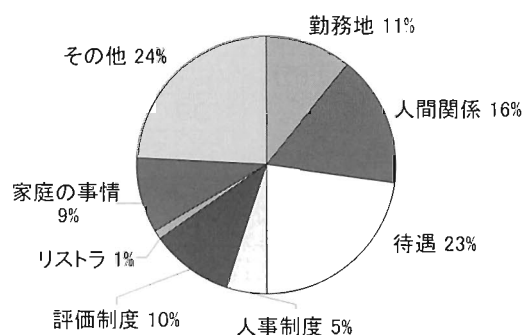
転職理由（転職した人）	52期生 (H16：18人)		48～52期生 (H12～H16：96人)	
	件数	%	件数	%
理 由				
勤務地	7	21	17	11
人間関係	4	12	26	16
待 遇	5	15	36	23
人事制度	0	0	8	5
評価制度	1	3	16	10
リストラ	1	3	2	1
家庭の事情	2	6	15	9
その他	13	39	38	24
合 計	33	100	158	100

【参考】－ 転職理由－

52期生（H16）



5年間合計〔48期生～52期生（H12～H16）〕



5年間継続実施した卒業後3年のアンケート調査結果での、転職理由は、1. 待遇、2. 人間関係、3. 勤務地、4. 評価制度、5. 家庭の事情 等となっています。平成16年度卒業生の転職理由も、5年間平均とほぼ同様の傾向でした。（表3）

今回の結果から、キャリアサポート課としてはキャリアサポートガイダンス、学内企業セミナー内容の充実、

きめ細やかな職種別情報提供の必要性が示唆され、今後さらに、個人面接を充実させて学生一人ひとりの興味、価値観、能力に応じた進路・就職支援を強化していきたいと考えています。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました平成16年度卒業生（52期生）の皆様、および本学同窓会事務局の方々には心からお礼申し上げます。

マナーについて

学内、学外を問わず互いに快適な生活を送るために、マナーについて考えてみませんか？ 特に本学にはバスの乗車マナーに関する苦情がよく寄せられています。皆さん一人ひとりが大阪薬大生であることの自覚を持って行動してください。社会において、マナー違反を見つめる目はそんなに甘くはありません。マナーを守ることは他の人、ひいては自分自身への思いやり・優しさです。

【バスの乗車マナー】

- ・お年寄り、体の不自由な人、妊婦の方、体調のすぐれない人、小さいお子さんを連れている人などには率先して席を譲る→医療系の大学で学ぶ皆さんの優しさに期待します。
- ・大きな声で話をしない→本学学生以外の人も乗車しています。仕事で疲れている人も乗っていますので、気配りが大切です。
- ・車内では携帯電話を使用しない

【自転車のマナー】

- ・スピードの出し過ぎに注意→特にお年寄りや子供にとって、下り坂の自転車はととても危険です。自転車による対人事故の報告も届いていますので十分注意してください。
- ・夜間はヘッドライトを点灯する

【学内のマナー】

- ・喫煙は定められた場所→歩きタバコ、吸い殻のポイ捨て、定められた場所(灰皿が設置されている場所)以外で勝手にタバコを吸うことを本学は禁止しています。
- ・白衣を着用したり、泥だらけの靴や服のまま食堂を利

- 用しない→食事をする場所に白衣や汚れが目立つ服・靴を着た学生がいると周りの人は不愉快です。
- ・食堂、講義室、図書館での席取りをしない
- ・空き缶などのゴミは分別してゴミ箱に捨てる
- ・暗くなったら音や声に気を配る→学内でも近隣住宅までの距離の近い場所があります。夜間に帰宅する際、単車の音や話し声は思った以上に響き渡ります。
- ・自分以外の物も大切に扱う→学内の備品や設備が破損していることがあります。その都度修理していますが、これは必要なコストでしょうか？
- ・講義室・廊下等では静かな環境をつくる

医療費補助制度について

平成20年4月1日より、従来の初診料補助制度を発展させた医療費補助制度を下記の要領で開始しています。この制度は、平成20年4月1日以降に発生した事故によるケガを対象とします。なお、学生教育研究災害傷害保険(学研災)については変更ありません。

対象となるケガ：正課中、クラブ活動中、学校施設内でのケガ(通学中のケガは含めません)

対象となる期間：初診を含め5日分(通院5回まで)

※原則、事故発生日の翌月の応答日の前日までの診療分が対象。

上 限：10万円(健康保険適用分に限る)

受 付 期 間：事故発生から1週間以内に「事故報告書」を提出し、治療終了後は速やかに「医療費補助申請書」を提出する。

申 請 窓 口：学生課

奨学生状況

1. 日本学生支援機構

平成20年10月1日現在

区 分	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合 計
第 一 種	34	34	45	33	24	170
月 額	54,000				88,000~	
	64,000				122,000	
第 二 種	99	72	82	77	11	341
月 額 (薬学課程増額月額)	3万・5万・8万・10・12万円から選択 (12万円を選択した場合は2万の増額可)				5万・8万・10万・13万・15万円から選択	
合 計	133	106	127	110	35	511

2. その他の育英・奨学会

区 分	(月 額)	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合 計	給与・貸与
あしなが育英会	40,000円	1	0	0	0	—	1	貸 与
(財)小野奨学会	学 部30,000円 大学院60,000円	10	5	2	1	10	28	給 付
(財)河内奨学財団	40,000円	1	0	0	1	—	2	給 付
(財)佐藤奨学会	19,500円	1	1	0	0	—	2	給 付
(財)森下仁丹奨学会	30,000円	—	—	—	—	1	1	給 付
大阪薬科大学一般奨学金	学 部50,000円 大学院60,000円	5	3	3	1	2	14	一部給付
大阪薬科大学育友会奨学会	40,000円又は 80,000円	5	2	4	0	0	11	貸 与
合 計		23	11	9	3	13	59	

「関西薬連大会・全国薬連大会」結果（平成20年度）

◆ 関西薬連大会

部 名	団 体	個 人
剣 道 部	男子	予選敗退
	女子	予選敗退
硬 式 庭 球 部	男子	9位
	女子	4位
硬 式 野 球 部		3位
サ ッ カ ー 部		予選敗退
柔 道 部	男子	2位
	女子	-----
ソフトテニス部	男子	7位
	女子	3位
卓 球 部	男子	-----
	女子	-----
バスケットボール部	男子	4位
	女子	2位
バドミントン部	男子	8位 新人戦4位
	女子	2位
バレーボール部	男子	3位
	女子	1位
陸 上 競 技 部	総合	5位
	男子	6位
	女子	4位

◆ 全国薬連大会

部 名	団 体	個 人
剣 道 部	男子	ベスト8
	女子	予選敗退
ソフトテニス部	男子	4位
	女子	1位
バスケットボール部	男子	予選敗退
	女子	予選敗退

注) ○内は学年

～健康管理支援室から～

免疫力に関して

冬将軍が到来するとウィルス性感染症の罹患率が高くなります。生活習慣・食生活などを見直し、免疫力を高めるよう努めましょう！

基本

- 1. うがい・手洗いの習慣をつけよう！
- 1. バランスよく栄養を摂る！（ビタミン・ミネラル類は生理機能を調節し代謝を円滑にする）
- 1. 十分な睡眠と適度な温度・湿度で部屋の環境を保つ！（温度20℃、湿度50～60%を目安に）

免疫力が低下する原因

老 化 ⇒健康的な生活を送っていても低下は止められません。滅りゆく免疫力は食事と生活習慣で補う。

★免疫細胞を作り出している胸腺の大きさも、10代をピークに下降の一途をたどります。

生活習慣 ⇒暴飲暴食、偏食、睡眠不足は確実に免疫力が低下します。

- *運動不足（筋肉量が減ると新陳代謝も低下する）
- ★適度な運動を続ける・マッサージをする（リンパ液【免疫細胞はリンパ球として存在】の循環を活発にさせ免疫力を高める）
- *十分な睡眠は新陳代謝を促し細胞の修復力を高める。
- *バランスの取れた栄養の補給（ビタミンは体内で合成することができないので外部から摂取する）



足元を暖めると代謝が活発に、冷え症の解消や安眠が得られます。

種 類	免疫との関係	多く含まれる食物
ビタミンA	皮膚や粘膜を強化する／抗酸化作用	かぼちゃ・人参・ほうれん草・モロヘイヤ・あしたば・うなぎ・レバー・パセリ・ブロッコリー・にら・小松菜・しその葉
ビタミンB (特にビタミンB6)	免疫力アップや抗酸化作用 血行促進や神経機能の維持	いわし・うなぎ・まぐろ・豚肉・レバー・ごま・ピーナッツ・納豆・牛乳・干しいたけ
ビタミンC	抗ストレス作用	パセリ・ピーマン・小松菜・ゴーヤ・れんこん・芋類・レモン・イチゴ・オレンジ
ビタミンE	強力な抗酸化作用や血行促進	ごま・アーモンド・ピーナッツ・松の実・すじこ・たらこ・青背魚・モロヘイヤ・かぼちゃ・アボカド・コーン油・大豆油
亜 鉛	胸腺を活性化させる／免疫細胞の機能を高める	牡蠣・ホタテ貝・いわし・うなぎ・レバー・豆類・大豆製品・海藻・玄米茶
セ レ ン	抗体の産生を高める／抗酸化作用	わかさぎ・いわし・カレイ・ねぎ・牛肉

ストレス ⇒活性酸素が過剰に発生し、身体を酸化させ組織の破壊が起る。免疫系の新陳代謝に悪影響をあたえる。

- ★ポジティブに発想を転換させる！『After all, tomorrow is another day!』のEasyな考えも必要です。
- ★簡単にできる気分転換から始めてみましょう！（思いっきり笑う、大声を出す、各種のセラピー【芳香・ミュージック・カラー・アニマル】自然に触れる）

環 境 ⇒換気・掃除をまめにする。添加物の少ない食品を選ぶ



勉強の一夜漬け、コタツでのうたた寝、オールをする

入試課

平成20年度 進学説明会

開催日：平成20年6月19日（木）

場所：ホテルグランヴィア大阪

参加校：60校

参加者数：62名

平成20年度オープンキャンパス

日程	第1回	第2回	第3回	第4回	合計
	7月26日（土）	7月27日（日）	8月23日（土）	11月1日（土）	
参加者数	250	370	280	46	946

模擬実験

- ①薬剤師の仕事を体験してみよう～散剤（粉薬）の模擬調剤と軟膏剤の調整～（臨床薬学実務教育研究室）
- ②様々な薬の形とその使い方（薬剤学研究室）
- ③バスフィズ（発泡性入浴剤）を作ろう（薬品物理化学研究室）
- ④葛根湯を作ろう（生薬科学研究室）



模擬実験①



模擬実験②

平成21年度 大阪薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻 入試状況

博士前期（修士）課程

試験の種類	募集人数	薬学コース			臨床薬学コース		
		志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数
推薦	16	15	15	15			
一般	24	62	59	53	9	9	9
一般（二次）	若干名	11	11	11			
合計	40	88	85	79	9	9	9

施設課だより

新学舎建設の進捗状況

平成20年2月に着工した新学舎建設工事は、平成21年2月の竣工まで残すところ3ヵ月余となりましたが、工事は順調に進捗しています。10月中旬には躯体関係の工事がほぼ終了し、現在、屋上防水工事等が行われています。

今後は、内・外部仕上工事及び外装工事を中心に行われます。

大学会館外壁塗装

高槻市への全面移転から12年を経過し、キャンパス内の各建物は外壁の塗り替えが必要な時期にきています。今年度は、特に劣化が目立っていた大学会館の外壁補修工事を行いました。大学会館以外の建物も来年度以降順次補修工事を行う予定です。



「外壁補修が完了した大学会館」



「新学舎の工事風景（屋上）」

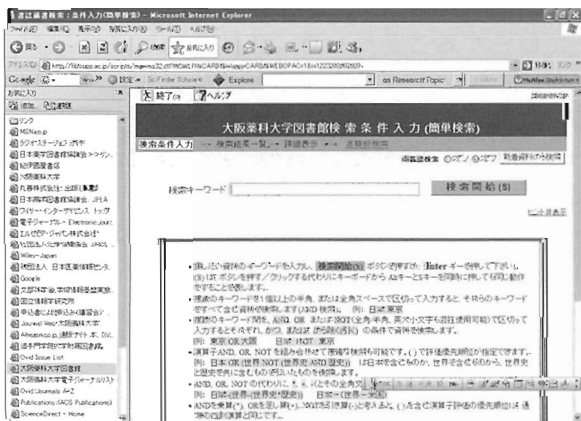


「新学舎の工事風景（3階）」

図書課だより

新着資料情報掲載方法の変更について

これまで新着資料（図書、DVD、製本雑誌等）の情報は、図書館の学内向けネットワークサービス「新着図書」に掲載していましたが、このたび同「図書検索」の「新着資料から検索」において「最近30日以内の受入資料」として随時掲載するように変更しましたので、希望図書の入荷状況等の確認に活用してください。



資料展示室への寄贈・寄託について

平成20年7月、油野奈那子氏（昭和36年本学卒）より次の4点の寄贈等がありました。

- ・寄贈
 - ①5キログラム上皿天秤1点
 - ②木箱入り天秤1点
 - ③折りたたみ式ドイツ製顕微鏡（ガラスカバー付）1点
- ・寄託（期間：3年）
 - ①木製看板「紅毛伝来 紫金錠 杏花堂製」（時代不詳）1点
（※紅毛とはオランダ・イギリスのこと）

資料展示室の所蔵資料として大切に管理し、寄贈等の意図に添うよう努めます。

図書館への学術洋雑誌の寄贈について

平成20年8月、川島康生氏（前理事長）より学術洋雑誌（25誌）の寄贈がありました。

- ・Circulation Journal (U.S.A.)
 - 2006年 70巻 7～12号（6誌）
 - 2007年 71巻 1～12号（12誌）
 - Supplement（1誌）
 - 2008年 72巻 1～6号（6誌）

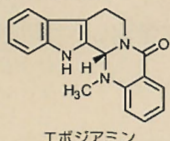
本学教員・学生の研究資料として活用させていただきます。

薬用植物の紹介

ゴシュユ *Evodia rutaecarpa*

ゴシュユ *Evodia rutaecarpa* BENTH. (ミカン科) は中国原産の落葉低木で温暖な長江流域、河南、陝西一帯に分布し、日本へは享保年間に渡来した。雌雄異種であるが、日本にあるのは雌木だけで各地で植栽されている。樹高は3~5 mに達し、枝は暗褐色~紫褐色で、葉は対生し7~8個の小葉からなる奇数羽状複葉で楕円形である。先端は急に尖っている。初夏に集散花序を頂生し、黄白の小花を多数つける。果期は9~10月で、さく果は偏球状、紫褐色で通常5室に開裂し、外面にはくぼんだ小点がある。堅くて壊れにくい。口にすると辛く、後に苦味が残り、独特の強い芳香(とは言いにくい)がある。日本では雄株がないので種子は不ねん性である。

生葉の「呉茱萸」は野生、栽培の両種があり、果柄をつけた果実の塊を採摘した後、果柄を除き天日乾燥または陰干したものである。中国各地で広く栽培されているが、特に貴州、広西産のものは産量が多く品質も良い。日本産は熊本県、鹿児島県などで栽培されているが、果柄の除去に人手を要しコスト高になることから、その量は少ない。したがって、現在、本邦市場品の大部分は中国産である。呉茱萸は古くは神農本草経の中品に収載され、その薬能は「中を温め、気を下し、痛みを止む。咳逆・寒熱 湿・血痺を除き、風を逐い、湊理(皮膚)を開く」と記され、主に、健胃、鎮痛、冷え性の治療を目的とした処方に配合されている。なお、茱萸は収斂する意味で、味が辛辣なことに由来している。成分として、インドールアルカロイドのエボジアミン、ルタエカルピン、キノロンアルカロイドのエボカルピンのほか、N,N-ジメチル-5-メトキシトリプタミン、苦味成分として変形トリテルペンのリモニンなどを含んでいる。特異の香氣は鎖状テルペンによる。エタノールエキスには鎮痛、微弱な体温上昇、血流促進作用があり鎮痛作用は寒冷時に著しいとの報告がある。エボジアミン、ルタエカルピンには鎮痛作用と血流改善作用が知られている。水製エキスおよびエボジアミンは正常体温を軽度上昇させ、クロルプロマ



エボジアミン

ジン処理ラットの体温低下を抑制する。また、エボジアミンはマウスへの皮下投与で末梢血管拡張作用を示すが、パニロイド受容体アゴニスト作用によるとされている。このほか呉茱萸には、抗アレルギー作用、抗潰瘍作用、鎮吐作用、止瀉作用、強心作用、血小板凝集抑制作用、血圧上昇作用、抗酸化作用などが報告されている。呉茱萸を配合している漢方処方には、手足が冷えて、時にみぞおちが膨満したり下痢するものの諸症：頭痛、吐き気・しゃっくりに用いられる呉茱萸湯、手足の冷えを感じ、下肢が冷えると下肢又は下腹部が痛くなりやすいものの諸症：しもやけ、頭痛、腰痛、冷え性、下痢に用いられる当帰四逆加呉茱萸生姜湯、手足がほてり、唇が渇くものの諸症：月経不順、こしけ、更年期障害、不眠、神経症、しもやけ、指先の荒れなどに用いる温経湯などがある。

同属のホンゴシュユ *E. officinalis* DODE、*E. bodinieri* DODEの果実も局方収載品「呉茱萸」の基原植物とされる。

ゴシュユの学名には植物分類学的に諸説があり、混乱が見られる。植物分類学の世界では属名の *Evodia* は現在存在しない。本来は、ラテン語の「良いにおい」 *euodial* に由来してこの名前が付けられたと考えられるが、1700年代には現在のようなタイプライターが存在しなかったため、印刷物において、uとvは区別されずに記載されたようで、その当時の文献で *Evodia* と書かれたものが、正しい学名として後生に伝えられたものと考えられている。また、種小名の *rutaecarpa* は古いラテン語表記であるため、aeはiに訂正することになり、正式な種小名は *ruticarpa* となる。このような理由から、第15改正日本薬局方第二追補改正案においては、ゴシュユの正名を *Euodia ruticarpa* とし、従来の学名を異名として括弧付けで記載することになった。

(薬用植物園長 馬場きみ江)



ゴシュユ

発行
大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1
TEL (072) 690-1010(総務課)
FAX (072) 690-1005()
URL <http://www.oups.ac.jp/>